

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

- (1) 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第54号(2020年)を刊行した。
- (2) 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加(発表)、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加などをおこなった。
- (3) 三井関係資料の調査・収集は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のために休止した。
- (4) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため閲覧業務を2020年3月3日から7月15日まで休止した。2020年7月16日より予約制により閲覧を再開した。
- (5) 資料の保存と利用のため、資料のデジタルスキニング等による複製作成を進めた。書庫内の資料保存環境整備を進めた。
- (6) 所蔵資料分類目録の整備、所蔵図書目録のデジタルデータベース化などを進めた。
- (7) 公的諸機関(地方自治体史編纂等)の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
- (8) 三井の歴史に関する講演(オンライン)をおこなった。
- (9) 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。
- (10) 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』2」の校正作業を進めた。
- (11) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付(3件)を受け研究を進めた。

II. 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係(資料の保管整理研究事業)

- (1) 特別展図録の発行で執筆の協力をした。
 - 特別展図録『小村雪岱スタイル－江戸の粋から東京モダンへ』(浅野研究所 2019年発行)
- (2) 展覧会図録を作成した。
 - 開館15周年記念 英語版名品図録『COMMEMORATING THE MUSEUM'S 15TH ANNIVERSARY MASTERPIECES FROM THE MITSUI FAMILY COLLECTIONS』(三井記念美術館 2020年7月発行)
- (3) 既存の館藏品図録を増刷した。
 - 館藏品図録『三井家伝世の至宝』(三井記念美術館 2015年11月発行)
 - 館藏品図録『敦煌写経－北三井家－』(三井文庫別館 2004年1月発行)

○館蔵品図録『三井家の茶箱と茶籠』（三井記念美術館 2008年4月発行）

- (4) 『三井美術文化史論集 第14号』を発刊した（2021年3月）。
- (5) 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2019年9月17日から2024年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定中。
- (6) 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへのリモート出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
- (7) 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。
- (8) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付を受け、研究を進めた。
 - ①基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」
(研究代表者・富田淳：九州国立博物館、研究分担者・清水実)
2020年度65万円（間接経費を含む）
 - ②基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」
(研究代表者・富田淳：九州国立博物館、研究分担者・海老澤るりは)
2020年度26万円（間接経費を含む）
 - ③基盤(B)「能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究」
(研究代表者・浅見龍介：東京国立博物館、研究分担者・海老澤るりは)
2020年度6.5万円（間接経費を含む）

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

- (1) 今年度は、新型コロナウイルス感染症の発生ならびに拡大防止を最重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行った対策は以下の通りである。
 - ①職員・スタッフの毎朝の検温、マスク・手袋・フェイスガード着用等、感染症拡大防止対策の徹底
 - ②1階エントランスで、来館者に対するマスク着用、入館時の検温、手指の消毒、緊急連絡先（感染者が館内で発生した場合）の記入、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞を依頼
 - ③開館時間の短縮（11：00～16：00、最終入館15：30）
 - ④展示室が密になることを避けるため、在館者数を一定数以下に保つべく、混雑が予想される一部の展覧会で日時指定事前予約制の導入
 - ⑤音声ガイドの貸出を中止し、スマートフォンによる音声ガイドアプリを導入
 - ⑥土曜講座、講演会、ナイトミュージアム、ワークショップ等の関連イベントの中止
 - ⑦団体来館の受け入れ中止

なお、上記の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策事業に於いては、文化庁による「2020年度文化芸術振興費補助金（文化施設の感染症防止対策事業）」として1,218,536円の交付を受けた。

(2) 今年度は、6回の展覧会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催見送りとなった展覧会もあり、最終的に下記4回の展覧会を開催し、2020年4月1日から2021年3月31日までに合計38,992人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,407,195人となった。

①「開館15周年記念特別展 三井家が伝えた名品・優品」

第1部 東洋の古美術（2020年7月1日～7月29日）

第2部 日本の古美術（2020年8月1日～8月31日） 入館者数 9,224人

②「三井記念美術館コレクション 敦煌写経と永楽陶磁」（代替展）

（2020年9月12日～11月8日） 入館者数 5,324人

③「三井記念美術館コレクション特別展 国宝の名刀『日向正宗』と武将の美」

（2020年11月21日～2021年1月27日） 入館者数 8,160人

④「特別展 小村雪岱スタイルー江戸の粋から東京モダンへ」

（2021年2月6日～3月31日）※会期終了日4月18日 入館者数 16,284人（3月31日現在）

開催中止

「三井家のおひなさま 特別展示 かわいい御所人形」

（2020年4月1日～4月5日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月28日で会期を終了

「知られざる芸術と文化のオリンピック展」

（2020年4月24日～6月16日）

（主催：オリンピック文化遺産財団、三井不動産株式会社、協力：三井記念美術館）

※オリンピック延期に伴い開催中止

開催延期

「特別展 ほとけの里 奈良・飛鳥の仏教美術」

（2020年9月12日～11月8日）

※2023年以降に開催を延期

(3) 例年、各展覧会に関連し開催している、教職員対象研修会、親子鑑賞会など教育機関及び青少年を対象とした教育普及活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、開催を見送った。

(4) 土曜講座・展示解説など、一般客を対象とした普及活動、また例年中央区の申請を受け、

区民対象の生涯学習の場として開催している「中央区民カレッジ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、開催を見送った。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、老朽化した「松の間」の屋根修繕工事を中心に、さらに「曙の間」の外壁修繕工事を実施した。

「公開」に関しては、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況に鑑み、実施を見送った。

<収益事業>

I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、現在は全フロア満室となっている。契約更新をしたテナントの賃料を上げた。また、今年度はカードリーダー更新工事、自動扉改修工事、空調機の加湿器メンテナンス・フィルター交換工事、変圧器用絶縁油交換工事等を実施した。

<事務局関係>

I. 役員会・役員人事

2020年5月29日に開催された理事会（決議の省略（書面決議）の方式で開催）において、辞任の申し出があった理事2名（槍田松瑩理事（代表理事・副理事長）、由井常彦理事（業務執行理事・常務理事・文庫長））及び評議員3名（武田晴人評議員、福岡正博評議員、室町正志評議員）の後任候補者を決議した。

2020年6月18日に開催された評議員会（決議の省略（書面決議）の方式で開催）において、辞任の申し出があった槍田松瑩理事の後任として飯島彰己氏（三井物産(株) 代表取締役会長）が、由井常彦理事の後任として武田晴人氏（東京大学名誉教授、前公益財団法人三井文庫評議員）が理事に選任された。また、辞任の申し出があった武田晴人評議員の後任として赤沼宇子氏（前三井記念美術館参事）が、福岡正博評議員の後任として久保田（川崎）素子氏（富士フィルムホールディングス(株) 執行役員）が、室町正志評議員の後任として綱川智氏（株 東芝取締役会長）が評議員に選任された。

2020年6月18日に開催された理事会（決議の省略（書面決議）の方式で開催）において、同日に選任された理事のうち、飯島彰己氏が代表理事・副理事長に、武田晴人氏が業務執行理事（常務理事・文庫長）に選定された。また、由井常彦氏（前業務執行理事・常務理事・文庫長）が顧問に選任された。

（所属・肩書はいずれも当時）

Ⅱ. 総務・人事関係

2020年5月に三井記念美術館運営部に契約職員1名を、6月に三井記念美術館学芸部に契約職員（契約学芸員）1名を雇用した。

2021年3月に社会経済史研究室の主任研究員1名、及び、司書1名が退職した。